

中央保健所における不妊専門相談センターの取組経過と評価

○関田春菜¹⁾、池袋貞子²⁾、小倉美千子²⁾、上原千枝¹⁾、戸高由佳里¹⁾、日高良雄¹⁾
中央保健所¹⁾、不妊専門相談センターウイング²⁾

1 はじめに

中央保健所内に設置している「不妊専門相談センターウイング」（以下、ウイングとする）には県内外から将来妊娠を希望する人、不妊に悩む人、不妊治療を求める人から寄せられる相談に応じている。

生殖補助医療の発達により、日本での不妊治療による出生数は増加しており、平成 29 年度は出生児全体の約 16.4 人に 1 人が高度不妊治療により誕生¹⁾する状況であるにも関わらず、ウイングでの相談件数は減少傾向にあった。そこで今回、現在の対応状況を整理し、体制の強化をおこなった経緯と現状についてまとめたので報告する。

2 調査対象

- 1) 期間 平成 29 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日まで
- 2) 対象 (1) 相談者の内訳
 - (2) 電話及び面接対応体制について：専門相談員、電話回線
 - (3) 「不妊専門相談センターウイング交流会」（以下、交流会とする）開催体制について：回数、内容、参加者数
 - (4) 啓発について：媒体、方法

3 結果

1) 相談者の内訳（表 1）

電話相談件数は、平成 29 年度に比べ平成 30 年度は約半数に減少したが、平成 31 年度は増加した。面接相談については、横ばいであった。

相談者内訳では、「本人女性」の割合が最も多かった。「本人男性」は平成 29 年度 22 件に比べ、平成 30 年度は 5 件に減少したが、平成 31 年度は 12 件に増加した。面接相談は、「本人男性」はすべて妻と同伴し、夫婦での相談であった。

2) 電話及び面接対応体制について（表 2）

ウイングは、平成 30 年度まで「女性専門相談センタースマイル」（以下、スマイルとする）と同日開設であり、専用電話回線は 1 回線であった。平成 30 年度にはスマイルの相談件数及び相談時間が増大し、ウイングへの電話が繋がらず相談出来ない状態となった。そのため、平成 31 年 4 月 1 日より、専用回線を増設し、ウイング専用とした。加えて、相談対応の充実のため、相談員の 1 日あたりの勤務日数を平成 29 年度は 1.09 人、平成 30 年度 1.12 人に対し、平成 31 年度は 1.28 人とした。また、相談員のみで同時に複数の相談があり対応できない場合は、保健所の母子担当保健師へつなぎ、対応協力を得た。

3) 交流会の開催（表 2）

当事者同士のピアカウンセリングとして実施する交流会を平成 30 年度からは毎月第 4 水曜日開催と定例化した。平成 31 年度は毎月定例開催に加え、内容を隔月交代で管理栄養士による講話及び調理実習と、ウイングの専門相談員による勉強会を加え充実を図った。

交流会参加者は平成 29 年度 2 名、平成 30 年度 2 名、平成 31 年度は 1 名であった。

4) 啓発について（表 2）

ウイングの啓発カードの掲載内容を男性も相談しやすい仕様に更新した。更新内容は、ウイングとスマイルの両面印刷を別様のカードにし、「女性の専門相談員」の記載を「専門相談員」へ、また、女性の姿絵を削除し、男女いずれでも相談できる窓口を強調した。啓発カードは県内の市町村、保健所、産婦人科医療機関、高等学校や大学等へ配布されている。

交流会については、チラシを作成し、県庁ホームページ及び地元新聞への掲載、県内保健所・特定不妊治療指定医療機関・宮崎市及び管内 2 町に配布することで周知した。

表 1 相談者内訳

	平成29年度				平成30年度				平成31年度			
	電話 (n=93)		面接 (n=12)		電話 (n=46)		面接 (n=11)		電話 (n=77)		面接 (n=13)	
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)
本人男性	22	(23.6)	3	(25.0)	5	(10.9)	2	(18.2)	12	(15.6)	4	(30.8)
本人女性	70	(75.3)	9	(75.0)	38	(82.6)	7	(63.6)	62	(80.5)	8	(61.5)
実父母	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(2.2)	2	(18.2)	1	(1.3)	1	(7.7)
兄弟姉妹	1	(1.1)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(1.3)	0	(0.0)
義父母	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
その他	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(4.3)	0	(0.0)	1	(1.3)	0	(0.0)

相談者のウイングの把握方法は、電話、面接のいずれも「ホームページ」が最も多く、増加傾向であり、ついで「啓発カード」での把握であった（図 1）。また、当初は不妊相談がスマイルにも寄せられていたが、令和元年 10 月からウイング専用回線のみとなった。

4 考察

電話相談数が平成 31 年度に回復したことから、専用回線の増設は効果的であったといえる。また、相談員の勤務日数を増やし、保健所の担当保健師の相談対応協力を得るようにしたことも件数増加につながったといえる。

ウイングの電話相談者の多くは女性であるが、面接相談の男性は妻と同伴であった。また、啓発カード更新後にウイングの把握方法に啓発カードが利用されていること、平成 31 年 7 月より男性不妊治療助成金の増額されたことにより、男性からの相談件数の増加が示唆され、男性が相談しやすい体制の検討が必要である。さらに、把握方法で最も多いホームページの掲載内容を充実させる必要がある。

不妊に悩んだ経験のある女性を対象としたニーズ調査³⁾においては、相談したかった相手として、「パートナー」が最も多く、「不妊治療の経験のある人」もニーズが高かった。しかし、交流会開催の定例化や内容の見直しを試みたものの、参加者の増加はみられず、ピアカウンセリング目的とした交流会企画に対するニーズは少なかった。

荒井ら⁴⁾は、不妊である自己と向き合った際に生じる葛藤を理解することや価値観の転換を促す支援の必要性を提言している。今後は、相談者の支援ニーズを踏まえ、不妊治療に伴い生じる様々な悩みに対して、専門性が高く、質の高い個別的な相談体制を充実させていくことが必要である。

荒井ら⁴⁾は、不妊である自己と向き合った際に生じる葛藤を理解することや価値観の転換を促す支援の必要性を提言している。今後は、相談者の支援ニーズを踏まえ、不妊治療に伴い生じる様々な悩みに対して、専門性が高く、質の高い個別的な相談体制を充実させていくことが必要である。

5 おわりに

ウイングは、県内唯一の不妊専門相談センターであり、実践経験豊かな相談員が専門知識やカウンセリングの技術を用いて相談に対応している。インターネット等で多くの情報があふれる中で、その人がその人らしい選択をおこなえるよう、相談者に寄り添った支援を継続していくとともに、悩んでいる人が足を運びやすい支援体制づくりを目指していきたいと考える。

表 2 ウイング体制の経緯

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
相談員数		1.09人/日	1.12/日	1.28 /日
電話回線		スマイル・ウイング1回線		ウイング専用回線増設
保健所の協力		なし		母子担当保健師対応
交流会	回数	4半期に1回	毎月第4水曜日	毎月第4水曜日
	内容	フリートーク	フリートーク	奇数月:管理栄養士講話及び調理実習 偶数月:勉強会
啓発方法	カードの見直し	ウイング・スマイル両面刷り 女性の姿絵。「女性の専門相談員」と記載		ウイング・スマイル別様 女性の姿絵削除 「専門相談員」と記載
	交流会	チラシ作成。県庁ホームページ、地元新聞への掲載。県内保健所、県内の特定不妊治療指定医療機関、宮崎市及びび2町への啓発依頼。		

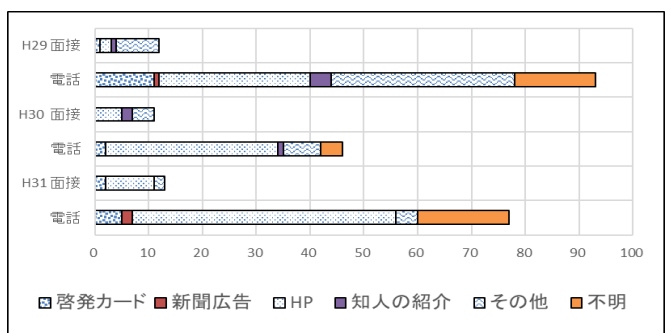


図 1 ウイングの把握方法

引用文献・参考文献

- 1) 日本産婦人科学会 2017ART データブック
- 2) 不妊治療情報センター：全国体外受精実施施設完全ガイドブック 2019
- 3) 平成 30 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業：不妊症及び不育症における相談支援体制の現状及び充実に向けた調査研究事業報告書
- 4) 荒井洋子：不妊治療後に妊娠し出産した女性が不妊体験を意味づけるプロセス 2011